



Newsletter の創刊にあたって

静岡産業大学学長
鷺崎早雄



このたびスポーツ教育研究所からニュースレターが発行されることとなりました。スポーツに関する学内の萌芽的研究やトピックスを適宜集めて、広く学外の方々に周知していこうという企画であります。本学には幅広いスポーツ分野の専門の教員がいるわけですから、今までなかったのが不思議だと思います。教員をはじめ研究所のメンバーのこれからの出稿を期待しているところであります。

今ちょうどWBCの準決勝に入るところです。このニュースレターが発行される頃には結果が出ています。予選では日本が予想外に全勝で勝ち進んだこともあるかもしれませんが、20%以上のテ

レビ視聴率だったと言われています。また、昨年はリオ・オリンピックが行われ、柔道、水泳、陸上などの活躍で、日本中眠れない夜が続きました。そのようにスポーツは大変盛んに行われています。

経済システムの中でスポーツの位置づけを考えてみますと、家計部門では、知育・徳育と並んで体育が子育てや成長に関わっていますし、健康を保つという点でも深く関わっています。余暇の活かし方、リクレーション、そして生涯スポーツも重要であります。また、プロスポーツを観戦して楽しんだり、フィットネスクラブに行ったりするスポーツ産業の消費者でもあります。企業部門では、プロスポーツ、スポーツ施設提供、マスコミなどメディアによる情報提供、イベントマネジメント、広告・マーケティング・マネジメント、肖像権などの権利マネジメントなど幅広い企業群がスポーツ産業を形成しています。行政部門では、教育を中心として健康、市民生活、厚生などスポーツと関わる政策は数多くあります。スポーツ経済という厳密な学問があるかどうか私はよくは知りませんが、これだけ広がりがあるとすれば「スポーツ経済論」として専門的に議論が蓄積されていてもおかしくはありません。

たまたまある時、図書館の書棚から「スポーツアナウンサー 実況の神髄」(山本浩著)という岩波新書に目がとまったことがあります。面白そうであったので借りて一気に読みました。著者は私もよく知っているNHKの元スポーツアナウンサーで、現在は大学教授として研究教育をしています。これを読むと、スポーツ実況という行ないがずいぶん多くの仕掛けで成り立っていて、その仕掛けには相当の熟練が必要であることが分かります。そしてその熟練とは何なのか、どういう構成なのかということが論理的に書かれているのです。著者によると、スポーツアナウンサーを志望してくる学生は後を切らないそうですが、そのような学生に対してスポーツアナウンサー論として論理的に目標を示すことは、その道の進歩発展にきわめて重要なことであるのだと思います。著者の話の中で私がもっとも分かったような気がしたのは、スポーツとはエネルギーを動きに変える動作の連続であるということ、動作にはベクトルがあって一定の向きに進行すること、そのベクトルが一瞬に向きを変える点があり、その瞬間にアナウンサーは「言葉でピンを打つ」のだそうであります。更に、ベクトルが変わる瞬間にピンを打つためには、変わったことを見て言葉を発したのでは遅くて、エネルギーが動きを変える瞬間に言葉を発しないといけないのだそうです。分かったようで分からない説明なのですが、よくよく考えてみるとよく分かるのです。私は理科系なので特にこういう説明の仕方が大好きだということもあるかもしれませんが、スポーツアナウンスの指導法をこのように実技からとらえる学問はあるのでしょうか。多分あるのだと思います。

ともあれ、スポーツが社会全体の視点に立っても、個人の視点に立っても、論理的に考えて解明していくべきことが山ほどありそうですし、その内容も面白いものが多数ありそうです。学問として評価し得るペーパーになるのはそのごく一部かもしれませんが、まずは興味がある、面白いと思うことについて積極的に投稿していただきたいものです。

Close up teachers

スポーツ教育コース



准教授 Toshiki Tachi

館 俊樹

PROFILE

- ①1977年8月18日生まれ
- ②東京都出身
- ③早稲田大学大学院人間科学研究科修士過程修了
- ④いまを生きる
- ⑤ゴルフ
- ⑥サッカー・ゴルフ・テニス
- ⑦様々な競技のスーパープレーをインターネットで検索する

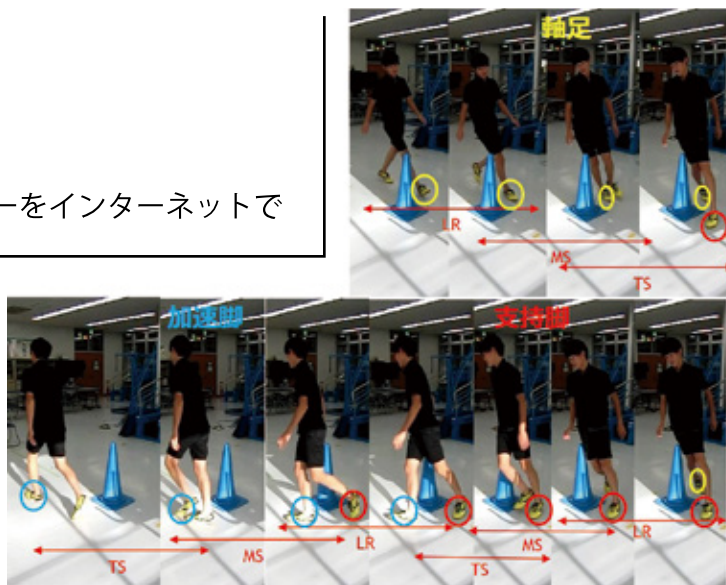
研究テーマ

- ・映像を用いた主観的評価手法の作成

最近の TOPICS

▶近年、情報処理技術の発達によって、これまでは高価な専門機器や技術が必要であった、映像を用いた指導や測定が簡便になってきました。映像を用いた指導のメリットは、自分の姿を確認できる点です。映像を用いない場合、指導者は、対象の状態と理想とする状態を言葉伝えなければならないのに対して、映像を用いることで、自分の手技と見本を比較することが可能となり、情報を共有することが可能となります。

また、映像を用いた測定を行うメリットは、これまで情報を量的な指標を用いて客観的に表現する必要があったのに対して、映像を用いることで量的に表現することなく客観的に情報を共有することが可能となることです。撮影方法の定量化等課題はありますが、映像を用いた指導や評価は今後スポーツ・健康づくりの現場で広がっていくと考えられます。



スポーツ保育コース



准教授 Satoshi Yamada

山田 悟史

PROFILE

- ①1973年9月26日生まれ
- ②愛知県出身
- ③中京大学大学院体育学研究科博士後期課程単位修得退学
- ④天は自ら助くるものを助く
- ⑤コーヒー、スイーツ、ゲーム、お笑い番組、サスペンス
- ⑥水泳
- ⑦娘と驚かせあいごっこをすること

研究テーマ

- ・子どもの運動能力の評価法
- ・子どもの運動技能の習熟過程と指導法
- ・子どものスポーツ活動による発育発達への影響
- ・子どもと一緒に楽しむスポーツ指導



最近の TOPICS

▶娘も3歳を過ぎ、周りからは「一番可愛い時だね～」と言われるが、私としては「いつでも一番可愛い」と思い、「大きくなるのが楽しみ」いや「このままでいて!」と揺れ動きながら、悩ましくも楽しく過ごしています。まあとにかく娘は可愛い。つらいのは、仕事で娘と遊ぶ時間がない時、娘が体調を崩した時でしょうか。親ばかりですね。

スポーツ保育に関わる者として、講義や講演では「子どもの発達のスピードは個人差が大きい」ので「低年齢での早い遅いは問題じゃない」と伝えていますが、娘が他の子よりちょっとできたりすると、やはり嬉しかったりします。私でもそうなのですから、保護者がお子さんに対してつい「もっともっと」となってしまうのはわかる気がします。今は子どもたちが楽しく幼児期を過ごせるために、いかに運動の発達について理解してもらうかを考えています。

スポーツ経営コース



講師 Hiroyasu Onuma

大沼 博靖

PROFILE

- ①1967 年 5 月 18 日生まれ
- ②北海道出身
- ③順天堂大学大学院
スポーツ健康科学研究科
博士後期課程単位修得退学
- ④継続は力なり
- ⑤ドラムを叩くこと
- ⑥野球
- ⑦英語の落語



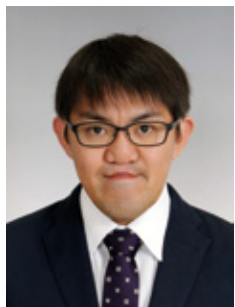
研究テーマ

- ・ ICT を活用した遠隔指導システムの構築
- ・ スポーツを活用した地域活性化
- ・ メディアスポーツの役割について

最近の TOPICS

▶スポーツはするのも見るのも好きだが、よく見に行ったのはプロ野球やラグビー、アメリカンフットボール。専任になって一番変わったことは、サッカーを見に行くようになったこと。と言っても私自身が積極的に見に行こうとしたわけではない。サッカーをしている小学生の三男が行きたいと言ったから。夏休みに磐田に遊びに来るときは、「ツアーには含まれています」とばかりに連れ出される。当然のことだが、プロの選手は上手い、試合前の練習だけでもお腹一杯になる。かつて日米野球で来日した、メジャーリーガーの練習を取材がてら見に行った時を思い出した。内野の守備など見ているだけでもため息がもれるほどだ。今年もすでに 1 試合観戦したが、つくづく様々なスポーツに触れることは大事だと実感している。ただ、新しいスタジアムに行く度にユニフォームを購入させられるのだけは勘弁して欲しい（笑）。

スポーツ経営コース



講師 Ken Sumida

住田 健

PROFILE

- ①1979 年 5 月 22 日生まれ
- ②大阪府出身
- ③オタゴ大学大学院
商学博士課程修了
- ④日々成長
- ⑤スポーツ観戦
- ⑥アメフト、サッカー、F1、ラグビー
- ⑦ジュビロ磐田の応援



研究テーマ

- ・ スポーツファンのアイデンティティ形成過程について
- ・ スポーツ消費者の情動の測定について
- ・ スポーツファンの心理的所有について
- ・ スポーツ参加者のアイデンティティの変容について

最近の TOPICS

▶2020 に開催される東京オリンピックに世間の注目が集まっています。しかし、その前年に日本でラグビーワールドカップが開催されます。ラグビーワールドカップは、その規模や経済効果からも世界第 3 位のスポーツイベントとして認知されており、冬季オリンピックよりも大規模なイベントなのです。静岡県は試合会場の一つであり、今は必死にアピール中です。本学でも大沼先生を中心にラグビーに注目した小冊子の作成をされました。私の研究室でも、エコパで行われたヤマハ発動機ジュビロの試合観戦者を対象にアンケート調査を行いました。静岡県は、サッカーがとても盛んなために、スポーツを行う環境は他の都道府県と比べて整っています。この恵まれた静岡で本学の強みである「ビジネス」+「スポーツ」がこれからのラグビー発展に寄与できればと強く願っています。



特任講師 Shingo Nakai

中井 真吾

PROFILE

- ①1977 年 6 月 12 日生まれ
- ②栃木県出身
- ③早稲田大学大学院人間科学研究科
博士前期課程修了
- ④一意専心
- ⑤スポーツ観戦、フルート
演奏（まだ吹ける！）
- ⑥バスケットボール
- ⑦引っ越しをするので、家に合う
家具を検索するのにはまっています！



研究テーマ

- ・スポーツ傷害のためのリスクマネジメント
- ・運動介入によるコンディショニングへの影響
- ・筋膜動態変化による身体への影響

最近の TOPICS

▶アスレチックトレーナーとして活動している私は、ケガの予防や対応に興味があり、米国にて開発されたスポーツのケガをするリスクを予測するテストであるファンクショナルムーブメントスクリーン（以下、FMS）を活用しています。FMSとは、動作テストを行い、機能的に身体を動かせるか？等をチェックします。『機能的に』とは、言い換えると『歪んだ動作』と言えます。歪んだ動作があるのに、高強度のスポーツ動作を行うと歪んでいる部分に負担がかかって、ケガを発生してしまうという考えです。実際に指導しているチーム（高校）で測定を行うと、『若くて、スポーツをしているから問題ないのか？』というところでもなく、スポーツをしているからこそ、動きの癖が偏っていて、歪んだ動作を引き起こしているようです。結局、ケガはしやすいのか？は、研究中です！！

Close up teachers



特任講師 Masato Ishida

石田 正人

PROFILE

- ①1968 年 1 月 23 日生まれ
- ②大阪府出身
- ③日本体育大学大学院 体育科学研究科
博士前期課程修了
- ④Be The Best You Can Be
（自分がなれる最高の自分になろう）
- ⑤英会話
- ⑥トランポリン・ラグビー・野球
- ⑦ビデオ編集



研究テーマ

- ・ジュニアアスリートに対するコーチング手法
- ・スポーツコーチ（教員）育成法（Coach Developer）
- ・目標設定に基づく効果的なコーチング
- ・アクティブ・ラーニングを主体としたカリキュラム作成

最近の TOPICS

▶私は本学で教鞭を取る傍ら、トランポリン競技のジュニア選手を中心としたチームの指導も行っています。まだ6年目という若いチームですが、「アスリートセンタードコーチング」という、アスリートにオーナーシップを与えるという考え方のもと、少しずつ成果が現れ始めました。今年度は日本代表が1名、県レベルの大会ではほとんどの部門で優勝かメダルの獲得、さらに全国レベルの大会でも3名がメダルを獲得しました。今後はこのようなスポーツ指導現場にてコーチングを行う若き指導者と共に、どうすればより効率的で、より良いコーチングができるのかを一緒に学んで行きたいと考えています。それには、私自身もつねに学び続け、将来のトップアスリートをどのように育成していくかをテーマに、日々新しいアイデアを使って研究を進めようと考えています。

